恵那峡と大井ダム

Ena Valley and Oi Dam

男伊達ならこの木曽川の　流れくる水　止めてみよ

木曽節にも歌われた急峻で流れの早い暴れ川は、大正13年(1924)にこの恵那の地でダムにより堰き止められた。日本の大規模ダムの先兵となった巨大な発電用コンクリート式ダムの誕生である。建設の担い手は大正・昭和期の大手電力会社の「大同電力」。当時社長であり、のちに「電力王」と言われるようになった福澤桃介が建設を主導した。建設工事は度重なる洪水被害に見舞われて難航し、さらに関東大震災による金融不安で資金調達が滞り事業継続が危ぶまれるなど、幾度も困難に直面した。いかに「木曽川の水」を止めるのが難しかったかが察せられる。しかし大井ダムは完成し、ダム湖となった恵那湖は、恵那峡という景勝地の中心として見事な観光スポットになった。そして平成19年(2007)には、中部山岳地帯の電源開発に関する貴重な産業群の一つとして、大井ダムならびに大井発電所は国の「近代化産業遺産」に認定されている。大井ダムと恵那湖を両方見ることができる天端と言われるダム上の道を歩いていると、経済と自然の両面を見ることができる。一列に並んだ古の風情を漂わせるランプの傘は、その全てをずっと見守り続けている。

建設初期のダム

建設中の洪水

福沢桃介と川上貞奴を描いた小説「水燃えて火」の作者
神津カンナ著

遠方からのアクセス　恵那峡への行き方

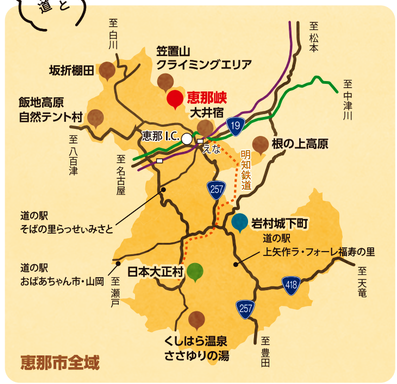
名古屋から車で約1時間、
東京方面・大阪方面からのアクセスも良好。

高速道路をご利用の場合
名古屋ICより
東名高速ー中央自動車道にて
約50分
恵那ICから　約10分

鉄道をご利用の場合
名古屋駅より
JR中央本線・快速にて
約1時間、
恵那駅下車　路線バスにて約15分

観て・遊んで・食べて　恵那市観光スポット

恵那峡を満喫した後は、こちらのスポットに訪れてみてはいかがですか。



重要伝統的建造物群保存地区

岩村城下町

歴史の重みを感じさせる岩村城跡をはじめ、江戸時代の雰囲気が残る町並みが広がります。連続テレビ小説「半分、青い。」のロケ地としても知られ、多くの観光客が訪れています。

アクセス
- 恵那峡から車で約30分
- 恵那駅から明知鉄道で約30分

大正ロマン館

日本大正村

大正のたたずまいを残す日本大正村がある明智町。養蚕業で栄えた活気あるハイカラな時代の「旧き良き」建物や人情が残されており、明智光秀出生の地ともいわれています。

アクセス
- 恵那峡から車で約45分
- 恵那駅から明知鉄道で約55分

恵那市の観光情報はこちらから

(一社)恵那市観光協会　URL **https://www.kankou-ena.jp/**

@kankouena　@kankouena　@kankouena55
(一社)恵那市観光協会の各SNSも更新中

【お問い合わせ】(一社)恵那市観光協会　〒509-7201 岐阜県恵那市大井町 286 番地 25　TEL：0573-25-4058 ／ FAX：0573-20-0433

新たな魅力が加わりました！

四季折々の自然とダム建設にまつわる物語。自然と歴史を感じられる恵那峡をお楽しみください。

ENAKYO 恵那峡

四季折々の、万華鏡。

岐阜県
恵那市

今までの魅力はそのままに、より快適に、より自然を感じられるよう生まれ変わりました!!

季節の花々や、自然の移ろいを感じられるダム湖「恵那峡」。今までの魅力はそのままに、さらに恵那峡を満喫できる新たな魅力が加わりました。子供と一緒に楽しめる「さざなみ公園」、ゆったり歩くことができる「湖畔・森林散策路」。峡谷美を眺めながら過ごせる「ウッドデッキ」や恵那峡の歴史や自然を紹介するビジターセンターも。近くには日帰り温泉が利用できる施設や、和洋菓子のお店が並ぶ通りもあります。時間を気にせずゆったりのんびり。四季折々で変わる恵那峡をご堪能ください。

このマークは日帰り入浴も可能な施設です

四季折々の自然を間近で満喫 恵那峡遊覧船

高速ジェット船で周遊する恵那峡巡り。恵那峡の壮大さを間近で満喫できます。約30分間のクルージングでは奇岩・怪岩を巡り、季節ごとに趣を変える自然景観を楽しむことができます。また初冬から春先にかけて渡り鳥が飛来し、バードウォッチングが楽しめます。

オシドリ

窓から眺める大パノラマ

お問い合わせ　恵那峡遊覧船　TEL:0573-25-4800

目を楽しませる恵那峡の自然

さざなみ公園には約200本の桜の木が植えられ、春には夜桜も楽しめます。そのほか森林散策路周辺にはもみじや斑入りマルバノキの恵那錦が植えられており、秋は紅葉が楽しめるスポットになっています。カタクリや市の花であるササユリが自生しており恵那峡の自然の豊かさが感じられます。

NEW

1 湖畔・森林散策路

湖畔をゆったりウォーキング

もみじやマルバノキ（恵那錦）が植えられており秋にはきれいに色づく紅葉が楽しめます。フットライトが設置してあり夜はもちろん、朝日を浴びながらの散歩も楽しむことができます。

一休みをして自然を観察するのもお勧めです

NEW

2 ウッドデッキ

ウッドデッキでのんびりうたたね

木のぬくもりを感じられるウッドデッキが広がります。段差部はベンチとして利用可能です。湖畔の景色を楽しみながら時間を忘れてゆっくりしてみてはいかがですか。

笠置山と大井ダムの天端が目の前に広がります

NEW

3 ビジターセンター

恵那峡の魅力を紹介

県立自然公園である恵那峡の自然や歴史を、パネルの展示や映像を通じて紹介。また旬の情報や観光情報も提供しています。

気軽にご利用いただける施設です

NEW

4 傘岩・千畳敷岩

自然が生み出す造形美

それぞれの岩を観賞しやすいように樹木を伐採し、散策道を整備しました。国指定天然記念物「傘岩」は他に類を見ない珍しい岩として一見の価値があり、一枚岩の「千畳敷岩」から眼下には恵那峡を望むことができます。

近くには、千畳敷岩につづく階段があります

NEW

5 さざなみ公園

親子で広場をかけまわろう

ダム建設に貢献した「桃介」と「貞奴」の記念碑が公園中央に立っています。開けた広場には、遊具があり親子で自然を感じながら楽しむことができます。

ダムを眺める福沢桃介像と貞奴のレリーフ

夜にはライトアップされます

福澤桃介と川上貞奴 Momosuke Fukuzawa and Sadayakko Kawakami

福沢桃介　川上貞奴

福澤桃介は福澤諭吉の娘婿である。諭吉は明治26年に発刊された「実用論」の中に、これからの日本には機械化による経済発展が欠かせず、そのためには電力が必要だが、資源の乏しい日本に於いては水力こそが期待されると書いた。水は「ホワイトコール（白い石炭）」だと説いたのも諭吉である。桃介はその岳父の言葉を具現させた。木曽川に七ヶ所の発電所を造ったのである。しかも特筆すべきなのは、桃介の手による七ヶ所の発電所は今も残り、産業遺産や重要文化財となっているものが多いということである。単なる工場ではなく、ドイツのライン川に立ち並ぶ古城のように発電所を建てたいとの桃介の思いは、大正７年（1919）に完成した賤母発電所から始まった。

川上貞奴は日本の女優第一号と言われているが、オッペケペー節で一世を風靡し、新派劇の父と言われた川上音二郎の妻だった。その音二郎が亡くなったのち、貞奴は女優を引退し、幼なじみだった桃介のパートナーとして七ヶ所の発電所建設に寄与することとなる。桃介と貞奴はライン川の古城のような発電所を造る一つのチームだった。女性が大規模な発電所事業に関わったのも貞奴が初めてだろう。だからこそ発電所そのもの、窓や意匠にも今では考えられないような美的な感性が溢れている。男の力と女の力の融合である。

福沢桃介と川上貞奴を描いた小説「水燃えて火」の作者
神津カンナ著

神津 カンナ

神津 カンナは、東京都出身の作家、エッセイスト、コメンテーター。母は女優の中村メイコ、父は作曲家の神津善行。弟は画家の神津善之介。俳優の杉本哲太は妹の神津はづきと結婚しており義弟にあたる。